

イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。



第一三共の現況と成長戦略

第一三共株式会社

常務執行役員 CFO

小川 晃司

2023年12月16日（土）

将来の見通しに関する注意事項

本書において当社が開示する経営戦略・計画、業績予想、将来の予測や方針に関する情報、研究開発に関する情報等につきましては、全て将来を見込んだ見解です。これらの情報は、開示時点で当社が入手している情報に基づく一定の前提・仮定及び将来の予測等を基礎に当社が判断したものであり、これらには様々なリスク及び不確実性が内在しております。従いまして、実際の当社の業績は、当社の見解や開示内容から大きくかい離する可能性があることをご留意願います。また、本書において当初設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。なお、実際の結果等にかかわらず、当社は本書の日付以降において、本書に記述された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有していません。

本書において当社が開示する開発中の化合物は治験薬であり、開発中の適応症治療薬としてFDA等の規制当局によって承認されてはおりません。これらの化合物は、対象地域においてまだ有効性と安全性が確立されておらず、開発中の適応症で市販されることを保証するものではありません。

当社は、本書に記載された内容について合理的な注意を払うよう努めておりますが、記載された情報の内容の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について、当社は何ら保証するものではありません。また、本書に記載されている当社グループ以外の企業・団体その他に係る情報は、公開情報等を用いて作成ないし記載したものであり、かかる情報の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について当社は独自の検証を行っておらず、また、これを何ら保証するものではありません。

本書に記載の情報は、今後予告なく変更されることがあります。従いまして、本書又は本書に記載の情報の利用については、他の方法により入手した情報とも照合し、利用者の判断においてご利用ください。

本書は、米国又は日本国内外を問わず、いかなる証券についての取得申込みの勧誘又は販売の申込みではありません。

本書は投資家判断の参考となる情報の公開のみを目的としており、投資に関する最終決定はご自身の責任においてご判断ください。

当社は、本書に記載された情報の誤り等によって生じた損害について一切責任を負うものではありません。

1. 医薬品の分類と市場

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略

4. 株主還元方針



医薬品

医療用医薬品

- ・ 医師の処方箋が必要

金額ベースの割合*1
約 9 : 1

OTC医薬品等

- ・ 一般用医薬品や配置用家庭薬など
- ・ 薬局やドラッグストアなどで購入可能

新薬

(イノベティブ医薬品)

満たされていない医療ニーズの充足

- ・ 独占販売期間が認められている

金額ベースの割合*2
約 8 : 2

後発医薬品

(ジェネリック医薬品)

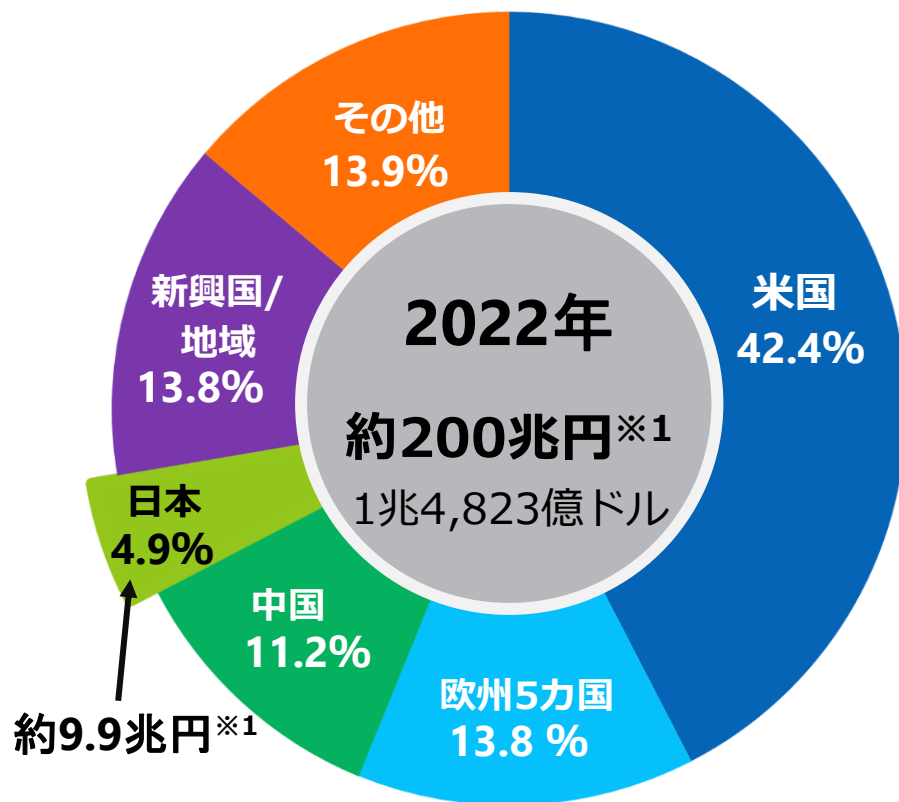
医療費の抑制

- ・ 独占販売期間が過ぎた後に発売

* 1 : 参照 : 厚生労働省「薬事工業生産動態統計年報」第 1 表 医薬品生産金額の推移

* 2 : 厚生労働省「令和4年度薬価基準改定の概要」をもとに当社にて算出

地域別シェア



年平均成長率予測値 2023-2027年

グローバル	3~6%
米国	2.5~5.5%
欧州5カ国	5.2%※2
中国	3.1%
日本	0.3%

※2 2027年の市場規模予測（\$204Bn）及び2022年の市場規模（\$263Bn）をもとに算出

※1 1ドル=135円換算

欧州5カ国：ドイツ、フランス、英国、イタリア、スペイン

新興国/地域：ブラジル、インド、アルゼンチン、バングラデシュ、チリ、コロンビア、エジプト、ハンガリー、インドネシア、メキシコ、パキスタン、フィリピン、ポーランド、ルーマニア、ロシア、サウジアラビア、南アフリカ、台湾、トルコ、ウクライナ、ベトナム

出典：IQVIA INSTITUTE, Global Use of Medicines 2023 OUTLOOK TO 2027をもとに当社作成

無断転載禁止

治療領域別での市場規模予測と成長率予測

順位	治療領域*1	2027年 市場規模予測*2	年平均成長率予測 (2023-2027年)
1	がん領域	50.9兆円	13~16%
2	免疫疾患領域	23.9兆円	3~6%
3	糖尿病領域	22.7兆円	3~6%
4	心臓血管領域	17.0兆円	1~4%
5	呼吸器領域	12.4兆円	3~6%
6	中枢神経領域	10.9兆円	2~5%

*1：弊社和訳。原文表記は順位1から順に、Oncology, immunology, diabetes, cardiovascular, respiratory, CNS (central nervous system)

*2：1ドル=135円換算

出典：IQVIA INSTITUTE, Global Use of Medicines 2023 OUTLOOK TO 2027をもとに当社作成
無断転載禁止

1. 医薬品の分類と市場

2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略

4. 株主還元方針



◆ 証券コード 4568（東証プライム市場）
単元株数：100株



代表取締役会長 兼 CEO
眞鍋 淳



代表取締役社長 兼 COO
奥澤 宏幸

◆ 設立 2005年9月
～三共と第一製薬の経営統合により設立～

◆ 本社 東京都 中央区

◆ 事業内容 医薬品の研究開発、製造、販売等

グローバル主力製品

抗悪性腫瘍剤
エンハーツ®



一般名：トラスツズマブ デルクステカ

抗凝固剤
リクシアナ®



一般名：エドキサバン

日本での事業

新薬

ワクチン

ジェネリック医薬品

OTC医薬品/ヘルスケア製品

企業 理念

パーパス（存在意義）

世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する

ミッション

革新的医薬品を継続的に創出し、
多様な医療ニーズに応える医薬品を提供する

最大の強み

サイエンス&テクノロジー

長年引き継がれてきた強力な研究開発のDNA

1899 三共



初代社長
高峰議吉博士
効チアスターゼ®、アドレタリンの発見

1915 第一製薬



前身のアセミン商会を設立
慶松勝左衛門博士
サルバルタンを国産化 (アセミン®)

高コレステロール血症治療剤
1989 メバロチン®



一般名：プロバスタチン

高血圧症治療剤
2002 オルメテック®



一般名：オルメサルタン

合成抗菌剤
1993 クラビット®



一般名：レボフロキサシ

第一三共

抗血小板剤
2009 エフィエント®



一般名：プロスグレ

抗凝固剤
2011 リクシアナ®



一般名：イドキサバン

抗悪性腫瘍剤
2020 エンハーツ®



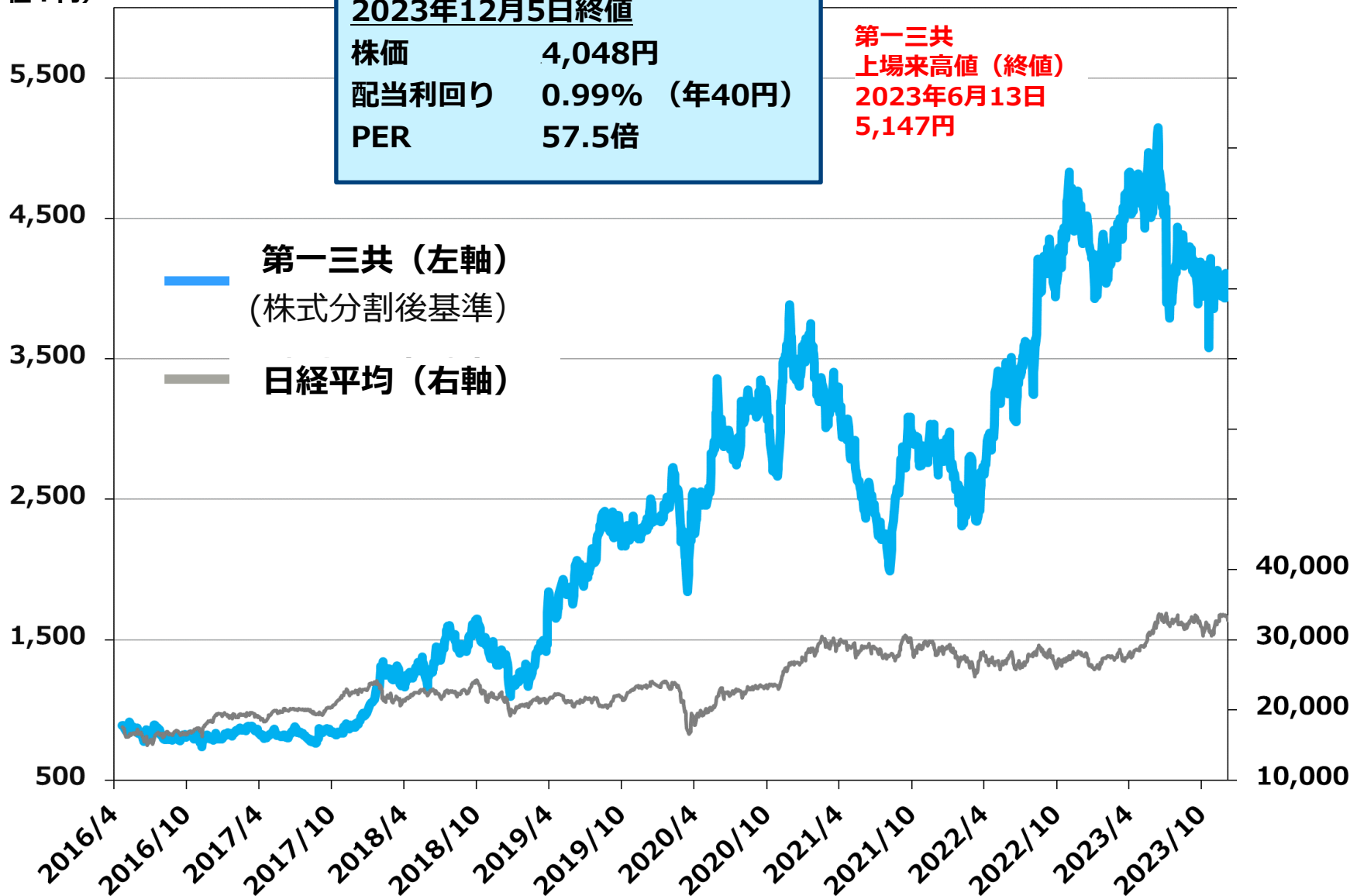
一般名：トラスズマブ テルクステカン

株価の推移

(単位：円)

2023年12月5日終値	
株価	4,048円
配当利回り	0.99% (年40円)
PER	57.5倍

第一三共
上場来高値(終値)
2023年6月13日
5,147円



1. 医薬品の分類と市場

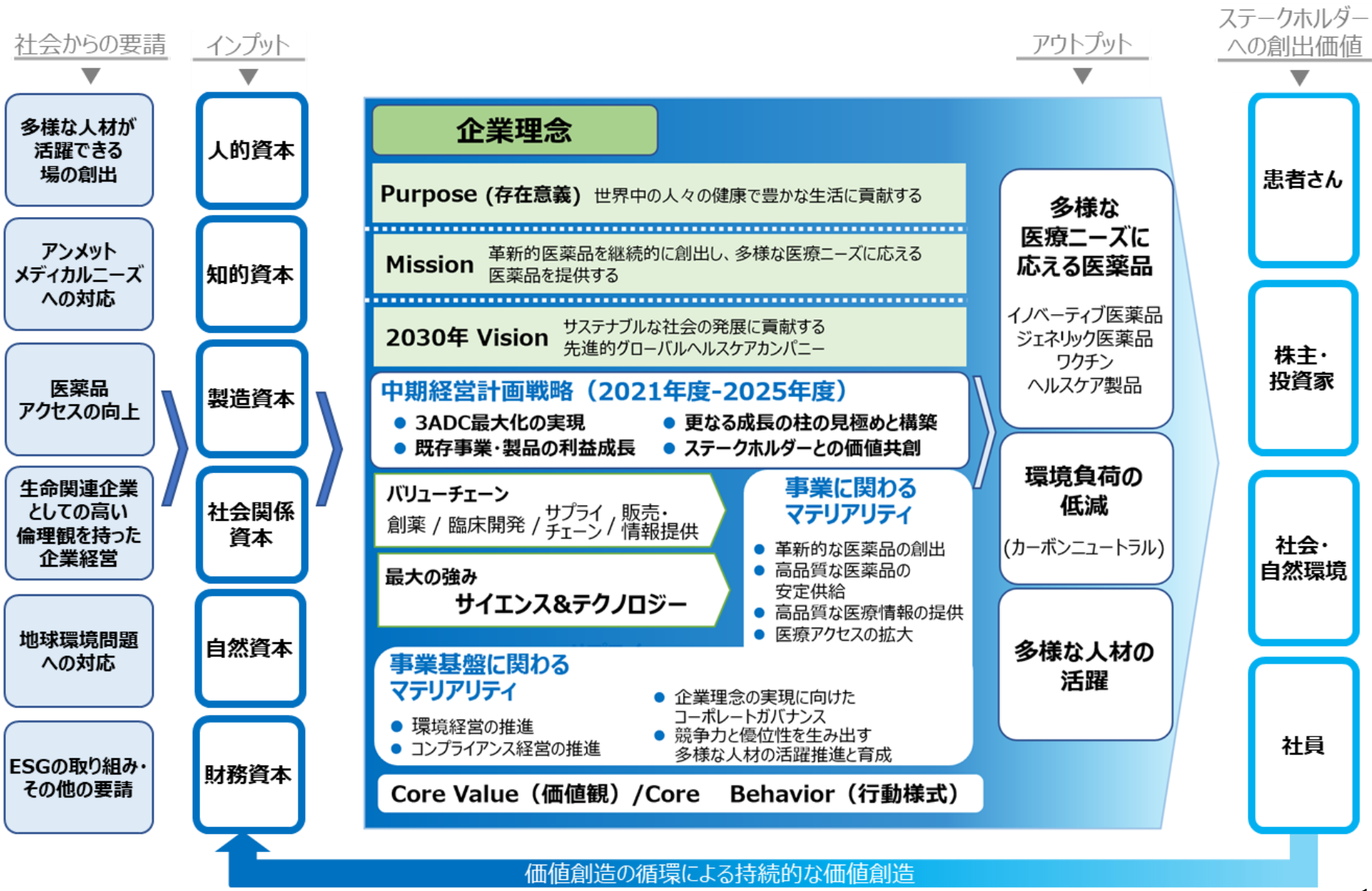
2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略


4. 株主還元方針



第一三共の価値創造プロセスとESG経営



ESG経営のもと、2025年度目標がんに強みを持つ先進的
グローバル創薬企業を達成し、2030年ビジョン実現に向けた
成長ステージに移行



2021-2025
第5期中期経営計画
2025年度目標を
達成し
成長ステージへ

2030年ビジョン

サステナブルな社会の
発展に貢献する
先進的グローバル
ヘルスケアカンパニー

2025年度目標を達成し成長ステージへ

2025年度計数目標

- ◆ 売上収益：1兆6,000億円（がん領域：6,000億円以上）
- ◆ ROE：16%以上
- ◆ 研究開発費控除前 コア営業利益率：40%
- ◆ DOE*2：8%以上

3ADC*1 最大化の実現

- ◆ アストラゼネカとの戦略的提携を通じたエンハーツ®、Dato-DXd最大化
- ◆ HER3-DXdの自社開発と最大化
- ◆ 製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員・供給キャパシティ拡大

既存事業・製品の 利益成長

- ◆ リクシアナ®利益最大化
- ◆ タリージェ®、Nilemdo®等の早期拡大
- ◆ 新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション
- ◆ アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

更なる成長の柱の 見極めと構築

- ◆ 3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ◆ ポストDXd-ADCモダリティの選定

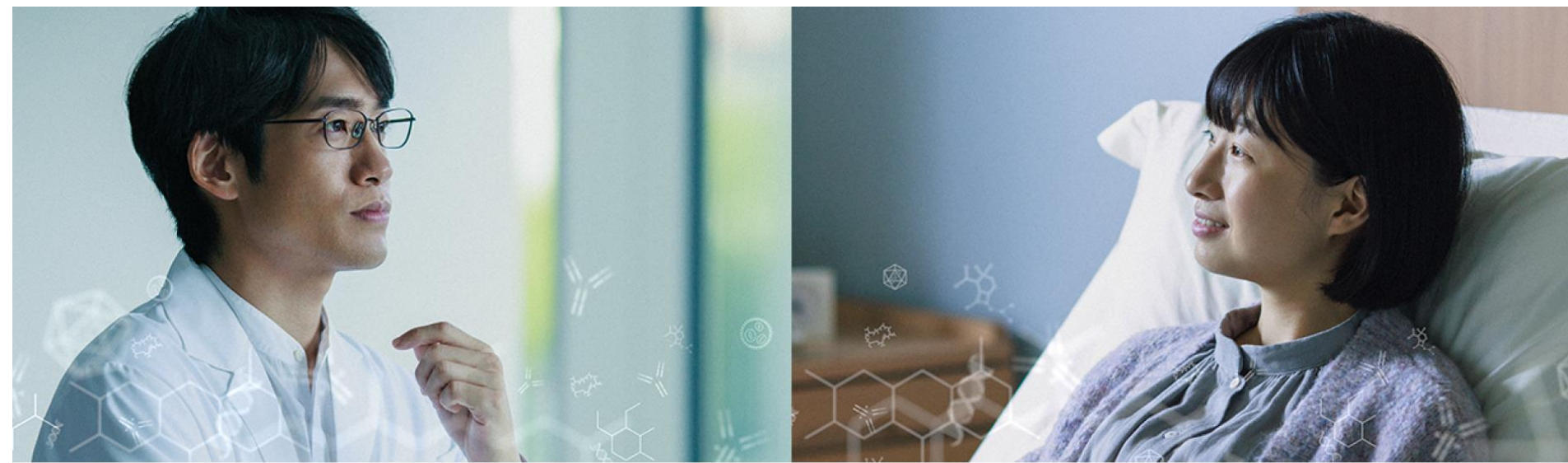
ステークホルダー との価値共創

- ◆ 患者さん：Patient Centric Mindsetによる患者さんへの貢献
- ◆ 株主：バランスのとれた成長投資と株主還元
- ◆ 社会：バリューチェーン全体の環境負荷の低減、およびパンデミックリスクへの対応
- ◆ 従業員：One DS Cultureの醸成に向けたCore Behaviorの実践

- ◆ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ◆ 新たなグローバルマネジメント体制による迅速な意思決定の実現

*1 3ADC: エンハーツ®, Dato-DXd、HER3-DXd

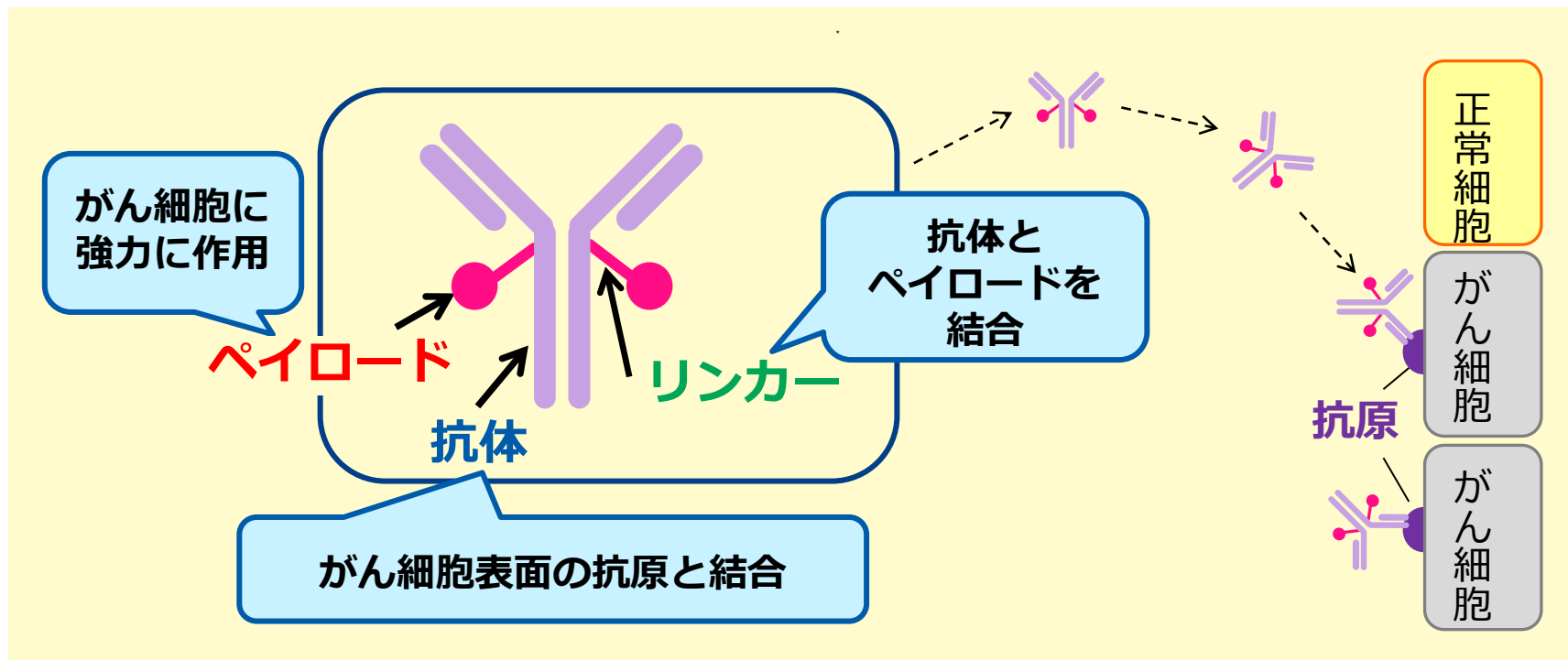
*2 DOE: 株主資本配当率 = 配当総額 ÷ 株主資本 (親会社の所有者に帰属する持分)



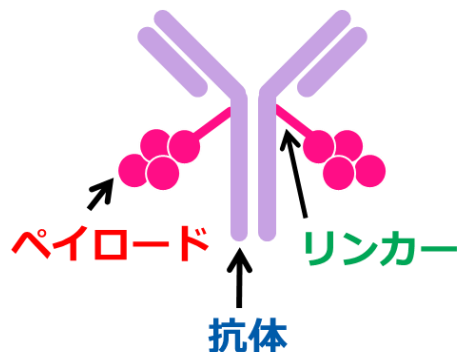
サイエンス。それは、希望。

当社の想いを「サイエンス。それは、希望。」というメッセージに託し、
「ADC技術」をテーマとした企業広告を展開中

抗体薬物複合体 (ADC)



薬物をピンポイントで標的の細胞に届けることを狙った医薬品



リンカー

特徴1：抗体1つあたり最大8個のペイロードを搭載可能

特徴2：血液中での高い安定性

特徴3：がん細胞に多く発現する酵素で選択的に切断

ペイロード

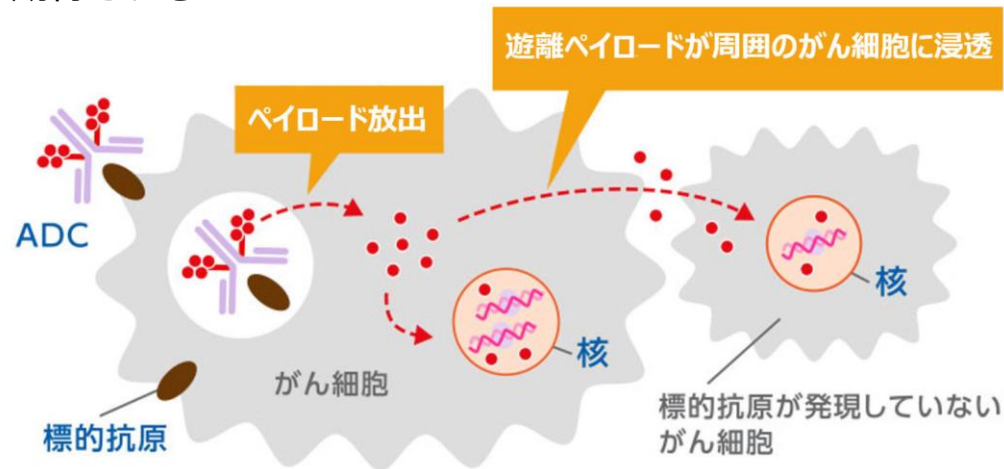
特徴4：新規ペイロード（DXd）

特徴5：強力な活性

特徴6：バイスタンダー抗腫瘍効果

特徴7：血液中からの速やかな代謝

がん細胞内で放出されたペイロードが周りのがん細胞にも作用する効果。本効果により、標的となる抗原が発現していないがん細胞が多く混在した腫瘍に対しても有効性が期待される





■ HER2抗原を標的とするADC（抗HER2 ADC）

■ 一般名：トラスツズマブ デルクステカン

■ アストラゼネカとの戦略的提携（2019年3月締結）

提携内容：エンハーツ®に関する共同開発・共同販促



対象地域：グローバル



受領対価：最大で総額 7,590億円

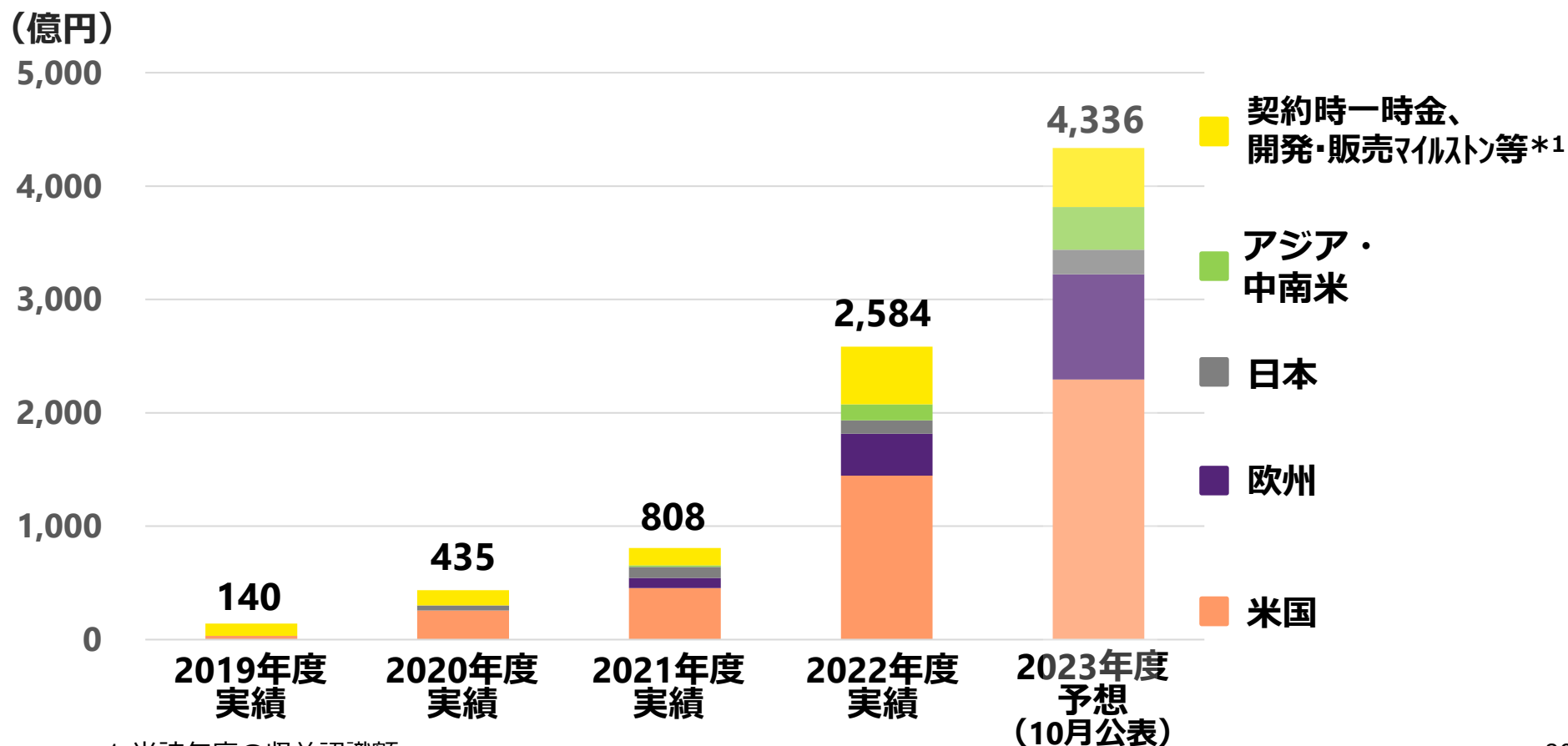
- 契約時一時金 1,485億円
- 開発マイルストーン等 最大4,180億円
- 販売マイルストーン 最大1,925億円

(1ドル=110円換算、契約締結時の為替レート水準)

■ 2020年1月 米国で発売

エンハーツ®：発売以来の売上収益の推移

- ◆ 着実な市場浸透と適応拡大により売上が順調に拡大
- ◆ 2023年度の売上収益は、4月公表予想に比べ650億円増加、対前期1,752億円増加の4,336億円を見込む

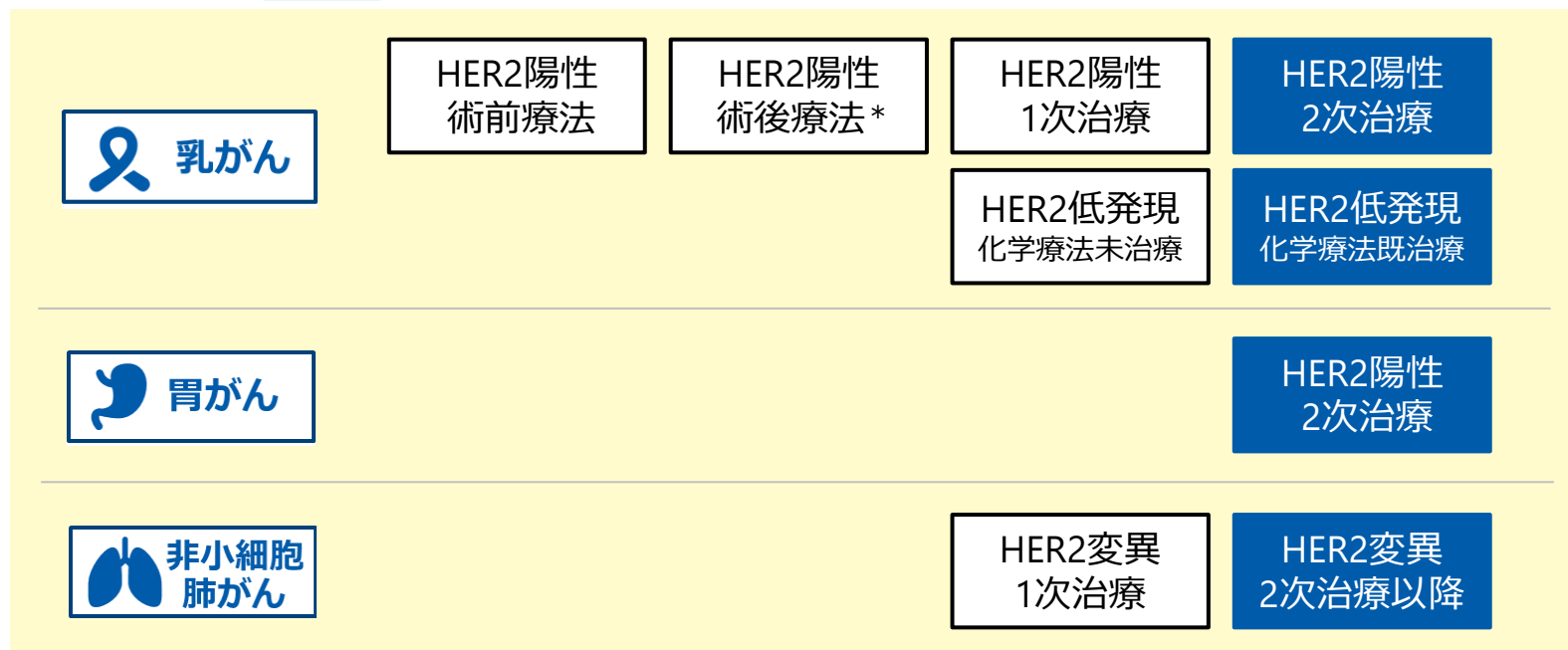


*1 当該年度の収益認識額

エンハーツ®：製品価値最大化に向けた開発状況

- ◆ 承認取得済の3つのがん種について、より早期の治療段階への適応拡大を目指し開発中
- ◆ HER2が発現する他の複数のがん種において、臨床的に意義のある持続的な有効性を示し、適応取得に向けて今年度、米国にて承認申請予定

■ 承認取得済の適応 □ 承認申請用の臨床試験を実施中の適応



* 術前療法後に浸潤性残存病変を有するHER2陽性乳がん患者を対象とする術後療法

(2023年10月現在)

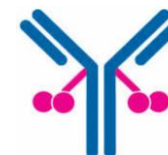
第6回日本医療研究開発大賞において「内閣総理大臣賞」を受賞

- 当社独自のDXd ADC技術を開発し、エンハーツ®を創製
- 本技術を適用した複数の治療薬候補の開発も進行中で、がん治療への更なる貢献が期待できる



日本医療研究開発大賞は、日本のみならず世界の医療の発展に向けて、医療分野の研究開発の推進に多大な貢献をした功績を称えるもので、2017年度より表彰が行われている。

内閣総理大臣賞は、極めて顕著な功績が認められる事例1件に対して授与される。



**DXd ADC技術を用いた
TROP2抗原を標的とするADC（抗TROP2 ADC）**

一般名：ダトポタマブ デルクステカン

アストラゼネカとの戦略的提携（2020年7月締結）

提携内容：Dato-DXdに関する共同開発・共同販促



対象地域：グローバル





受領対価：最大で総額 6,600億円

- 契約時一時金 1,100億円
- 開発マイルストーン 最大1,100億円
- 販売マイルストーン 最大4,400億円

(1ドル=110円換算、契約締結時の為替レート水準)

- ◆ 複数の承認申請用の臨床試験を実施中
- ◆ 非小細胞肺がん（2次／3次治療）の適応取得に向けて**今年度、米国にて承認申請予定**
- ◆ HR陽性かつHER2低発現または陰性の乳がん（2次／3次治療）での適応取得に向けて**今年度、米国にて承認申請予定**

承認申請用の臨床試験を実施中の適応
 今年度（2023年度）、米国にて承認申請予定

	Actionable 遺伝子変異あり	<div style="background-color: #90EE90; width: 100%; height: 100%; text-align: center; vertical-align: middle;">2次／3次治療</div>	
	Actionable 遺伝子変異なし		
	HR*2陽性かつHER2低発現または陰性	<div style="background-color: #90EE90; width: 100%; height: 100%; text-align: center; vertical-align: middle;">2次／3次治療</div>	
	HR*2陰性かつHER2陰性 (TNBC*3)		

*1 非扁平上皮非小細胞肺がん、*2 HR: ホルモン受容体、*3 TNBC: トリプルネガティブ乳がん (2023年12月現在)

*4 術前療法後に浸潤性残存病変を有するTNBC患者を対象とする術後療法

臨床試験の詳細情報: 当社ウェブサイトご参照 株主・投資家の皆さま > IR ライブラリ > 決算発表関連資料

https://www.daiichisankyo.co.jp/investors/library/quarterly_result/



**DXd ADC技術を用いた
HER3抗原を標的とするADC（抗HER3 ADC）**

一般名：パトリツマブ デルクステカン

開発状況

- ◆ **非小細胞肺がん（EGFR遺伝子変異あり）**
 - ✓ **3次治療の適応取得に向けて2023年度下半期に
米国で承認申請予定**
 - ✓ **2次治療での承認申請用の臨床試験を実施中**
- ◆ **乳がんでの臨床試験も実施中**

□ 承認申請用の臨床試験を実施中の適応 ■ 2023年度下半期に米国で承認申請予定



EGFR遺伝子
変異あり

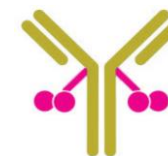
2次治療

3次治療

（2023年10月現在）

3ADC*に次ぐ成長ドライバー候補の登場

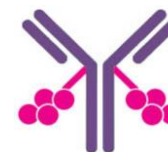
DS-7300/I-DXd（抗B7-H3 ADC）



- ◆ 多様ながん種※における持続的な有効性を示唆するデータを蓄積中
- ◆ 進展型小細胞肺がんの2次治療以降を対象としたフェーズ2試験を実施中

※ 小細胞肺がん、前立腺がん、食道扁平上皮がん、扁平上皮非小細胞肺がん

DS-6000/R-DXd（抗CDH6 ADC）



- ◆ 卵巣がん、腎細胞がんにおける有効性を示唆するデータを蓄積中

* 3ADC: エンハーツ®、Dato-DXd、HER3-DXd

HER3-DXd、DS-7300、DS-6000に関する戦略的提携

提携先 : Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USA (米国メルク)

対象製品 :   
HER3-DXd、DS-7300 (I-DXd)、DS-6000 (R-DXd)

提携内容 : 共同開発・共同販促 **対象地域** : グローバル

受領対価 : 総額 最大 3兆3,000億円 **締結時期** : 2023年10月

(1ドル=150円換算、契約締結時の為替レート水準)

	HER3-DXd	DS-7300 (I-DXd)	DS-6000 (R-DXd)	計
契約時一時金	2,250億円 ^{※1}	2,250億円	2,250億円 ^{※1}	6,750億円
開発費関連一時金	750億円 ^{※2}	750億円 ^{※2}	—	1,500億円
販売マイルストーン (最大)	8,250億円	8,250億円	8,250億円	2兆4,750億円
最大総額	1兆1,250億円	1兆1,250億円	1兆500億円	3兆3,000億円

※1 : HER3-DXdは契約締結から1年後、DS-6000は2年後に、契約時一時金の半額を受領予定。

※2 : 開発費は、製品毎に20億米ドルまで米国メルクが75%を負担、それ以降は両社で折半。すなわち、製品毎に20億米ドルまでの開発費について両社で折半した場合と比較して、米国メルクが当社より5億米ドル(750億円)を多く負担する(3製品共通)

<米国メルクが当社より多く負担する5億米ドル(750億円)の受領方法>

HER3-DXd、DS-7300分：契約締結時に開発費関連一時金として受領する。

(開発終了に伴い、米国メルクに一部返還される可能性あり)

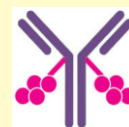
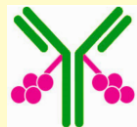
DS-6000分：契約締結時に受領せず、開発費が発生する都度、受領する。

提携先：Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USA（米国メルク）

◆ 世界トップクラスのオンコロジーカンパニー

- ✓ 免疫チェックポイント阻害薬「キイトルーダ®」を柱にがん領域における**豊富な経験**、がん免疫療法に関する**専門性**、**高い開発力**を有する

- ◆ 当社の強み **サイエンス&テクノロジー**およびADCに関する**専門性**と組み合わせることで、3製品の**開発加速**、**製品価値の極大化**を目指す



HER3-DXd、DS-7300 (I-DXd)、DS-6000 (R-DXd)

- ◆ 開発が先行する5つのDXd ADC製品に続く成長ドライバーへの迅速・柔軟なリソース配分により、**持続的成長に向けた好循環**を創出

ダイチロナ[®]筋注*

- ◆ 2023年11月、オミクロン株XBB.1.5対応1価mRNAワクチンについて、国内での追加免疫における一部変更承認取得
- ◆ 2023年11月、厚生労働省との間で、2023年秋開始接種に使用するワクチンとして、140万回分を供給することに合意
- ◆ 2023年12月、日本初の国産mRNAワクチンとして供給を開始

特徴

- ◆ 当社独自のカチオン性脂質を開発
- ◆ 新型コロナウイルスのスパイク蛋白質全長ではなく、受容体結合領域（RBD）を標的
- ◆ 冷蔵（2～8℃）での流通・保管が可能

*ダイチロナ[®]筋注の研究開発および生産体制整備は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の「ワクチン開発推進事業」および厚生労働省の「ワクチン生産体制等緊急整備事業」の支援を受けて実施

2023年度 連結業績予想（2023年10月公表）

（単位：億円）

	2023年度予想 【10月公表】			
		対 4月公表予想	対 前年度実績	
売上収益	15,500	+1,000	+2,715	
コア営業利益*	1,550	+150	+324	
当期利益 (親会社帰属)	1,350	+200	+258	
為替レート	USD/円	143.00円	+13.00円	+7.52円
	EUR/円	154.19円	+14.19円	+13.22円

売上収益・コア営業利益の主な増加要因

- ◆ エンハーツ®を中心とする製品売上の好調な推移
- ◆ 円安の進行による増収影響
- ◆ 米国メルクとの戦略的提携契約締結に伴う契約時一時金の売上収益の計上と研究開発費のコストシェアによる研究開発費の減少

* 当社は、経常的な収益性を示す指標として、営業利益から一過性の収益・費用を除外したコア営業利益を開示しています。一過性の収益・費用には、固定資産売却損益、事業再編に伴う損益（開発品や上市製品の売却損益を除く）、有形固定資産、無形資産、のれんに係る減損損失、損害賠償や和解等に伴う損益の他、非経常的かつ多額の損益が含まれます。

1. 医薬品の分類と市場

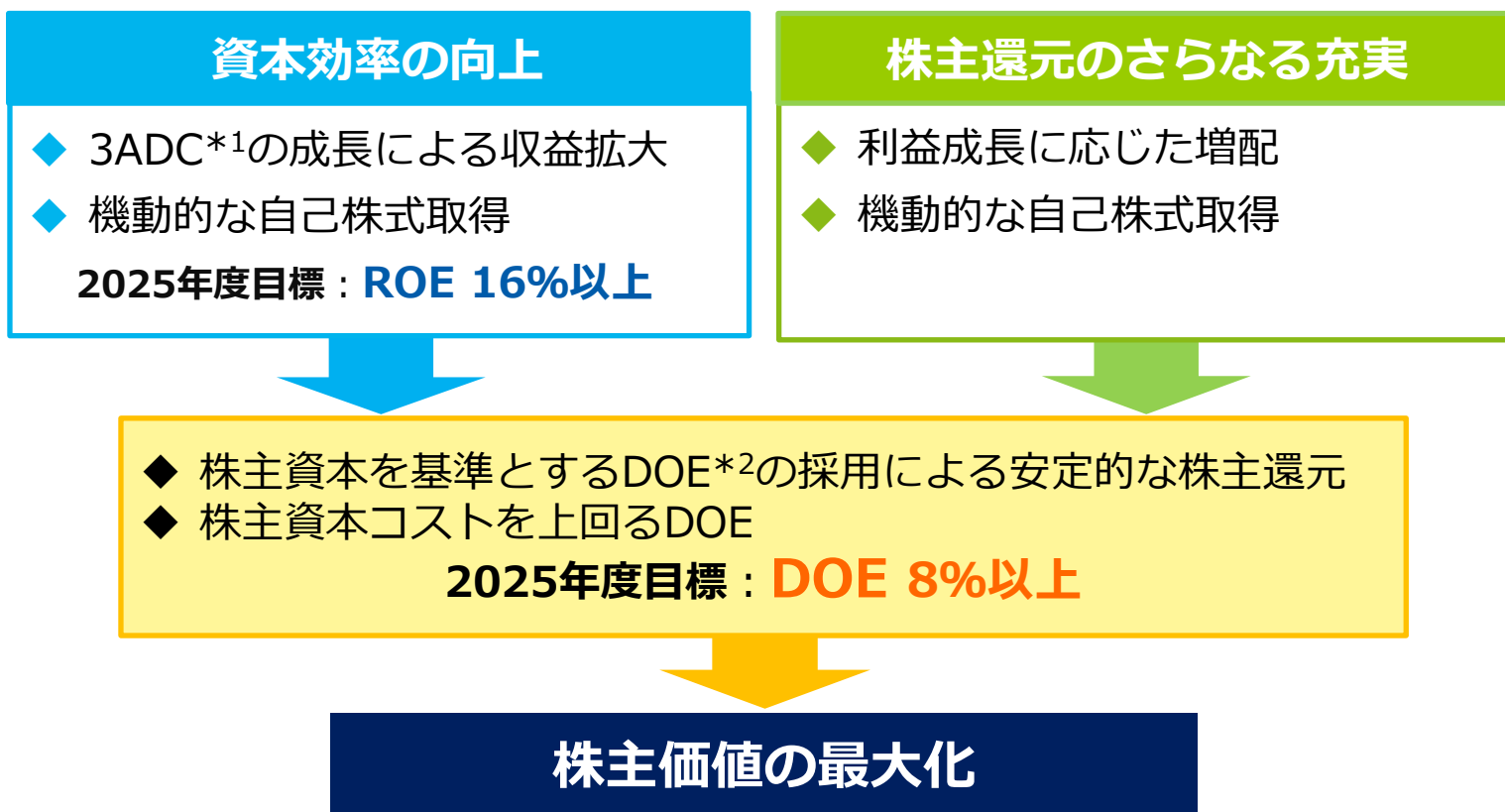
2. 第一三共の現況

3. 第一三共の成長戦略

4. 株主還元方針



第5期中計期間中（2021～2025年度）の株主還元方針

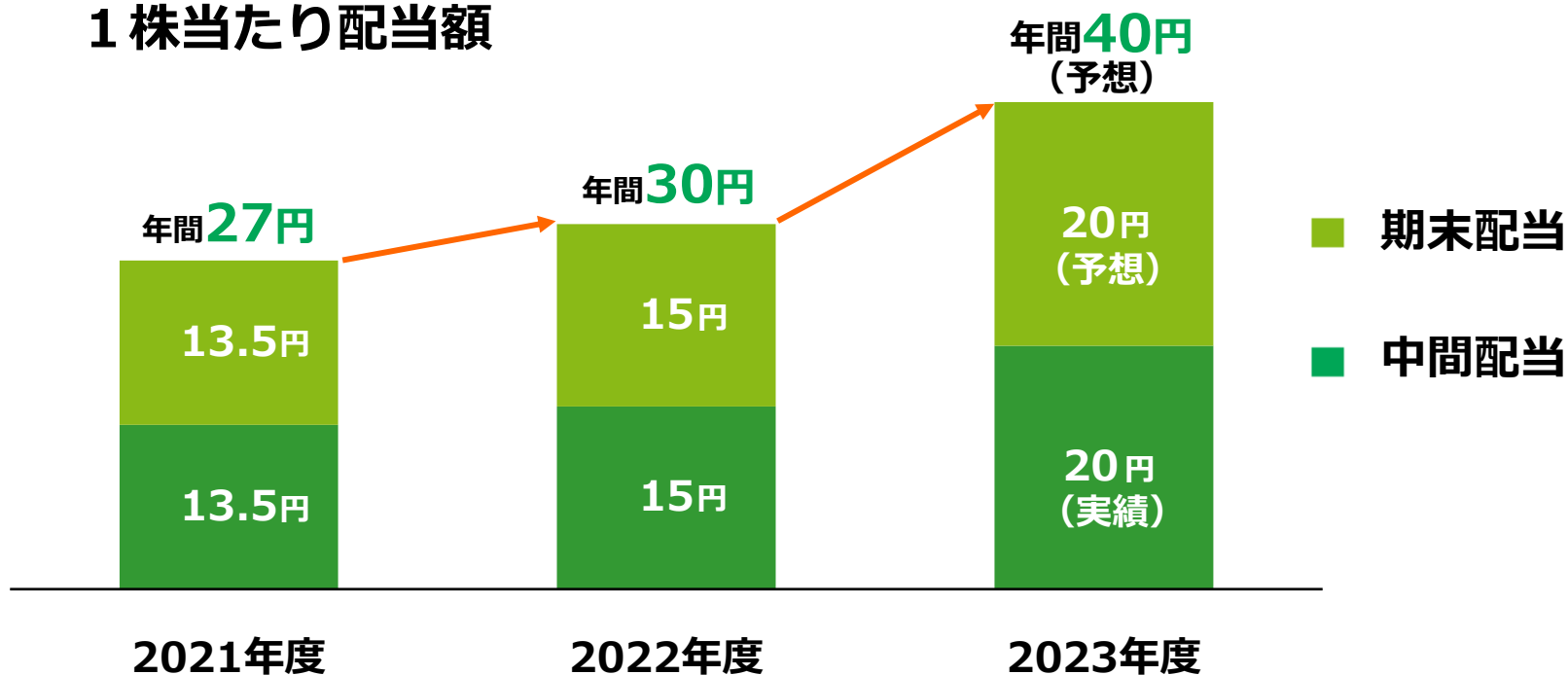


*1 3ADC: エンハーツ®, Dato-DXd, HER3-DXd


*2 DOE: 株主資本配当率 = 配当総額 ÷ 株主資本 (親会社の所有者に帰属する持分)

- ◆ 2022年度に引き続き、**2023年度も増配の予定**
- ◆ 2023年10月の連結業績予想の上方修正に伴い、1株あたり年間配当予想を**4月公表時に比べ 6円増配、2022年度実績に比べ 10円増配の40円**に上方修正

1株当たり配当額



2025年度目標がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業を達成し、2030年ビジョン実現に向けた成長ステージに移行



2021-2025
第5期中期経営計画
2025年度目標を
達成し
成長ステージへ

2030年ビジョン

サステナブルな社会の
発展に貢献する
先進的グローバル
ヘルスケアカンパニー

◆ 参考情報

当社ADC品目の開発パイプライン	――	36
連結業績予想（2023年10月公表）	――	37

◆ ご案内

個人投資家の皆さま向けのIR情報	――	38
IRメールマガジン	――	39

当社ADC品目の開発パイプライン


プロジェクト (標的抗原)	可能性のある 適応症	研究	前臨床	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3	申請	上市
------------------	---------------	----	-----	-----------	-----------	-----------	----	----

DXd ADC

1	エンハーツ® (HER2)	乳がん、胃がん、 非小細胞肺癌、 大腸がんなど	[Progress bar from Research to Market]					
2	Dato-DXd (TROP2)	非小細胞肺癌、 乳がんなど	[Progress bar from Research to Phase 2]					
3	HER3-DXd (HER3)	非小細胞肺癌、 乳がん	[Progress bar from Research to Phase 2]					
4	DS-7300 (B7-H3)	小細胞肺癌 食道扁平上皮がん、 前立腺がん など	[Progress bar from Research to Phase 1]					
5	DS-6000 (CDH6)	腎細胞がん、 卵巣がん	[Progress bar from Research to Phase 1]					
6	DS-3939 (TA-MUC1)	固形がん	[Progress bar from Research to Phase 1]					
7	DS-XXXX (非開示)	非開示	[Progress bar from Research to Phase 1]					

第二世代ADC

1	DS-9606 (非開示)	固形がん	[Progress bar from Research to Phase 1]					
---	------------------	------	---	--	--	--	--	--

 タイムラインは各プロジェクトで最も進んでいるステージを示している

連結業績予想（2023年10月公表）

（単位：億円）

	2023年度予想			
	【10月公表】	対 4月公表予想	対 前年度実績	
売上収益	15,500	+1,000	+2,715	
売上原価*	4,100	+100	+609	
販売費・一般管理費*	6,100	+600	+1,399	
研究開発費*	3,750	+150	+383	
コア営業利益*	1,550	+150	+324	
当期利益（親会社帰属）	1,350	+200	+258	
為替レート	USD/円	143.00円	+13.00円	+7.52円
	EUR/円	154.19円	+14.19円	+13.22円

* 当社は、経常的な収益性を示す指標として、営業利益から一過性の収益・費用を除外したコア営業利益を開示しています。一過性の収益・費用には、固定資産売却損益、事業再編に伴う損益（開発品や上市製品の売却損益を除く）、有形固定資産、無形資産、のれんに係る減損損失、損害賠償や和解等に伴う損益の他、非経常的かつ多額の損益が含まれます。本表では売上原価、販売費・一般管理費、研究開発費について、一過性の収益・費用を除く実績を示しています。

個人投資家の皆さまの関心度の高い情報を集めたページを当社ウェブサイトに掲載しています

個人投資家の皆さま



医薬品業界について

- 世界の医薬品市場
- 日本の医薬品市場
- 製薬会社のビジネスモデル



第一三共って どんな会社？

- 第一三共の歴史
- 第一三共の
パーパス（存在意義）
- 第一三共のグローバル展開
- 財務ハイライトと地域別・事業別売上
- 主要製品



第一三共の ビジョン/経営戦略

- 2030年ビジョン
- 第5期中期経営計画と戦略の柱
- 株主還元方針
- 計数目標



第一三共の がん事業について

- がんを取り巻く環境
- 「5DXd-ADCs and Next Wave」戦略
- 第一三共のADC技術



第一三共 個人投資家の皆さま 検索

<https://www.daichisankyo.co.jp/investors/individual/>

IR情報を中心とした当社ウェブサイトの更新情報等をお届けしています（原則 月2回配信）

INDEX

- 【01】：ニュースリリース ピックアップ
- 【02】：第一三共からのお知らせ
- 【03】：皆様からの声

—2023年11月30日号—



第一三共株式会社

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。

医療関係者の皆さま 

一般・患者の皆さま

第一三共
Medical Community

採用情報

お問い合わせ



| 第一三共について ▾ | Our Stories | サステナビリティ ▾ | 研究開発 ▾ | 株主・投資家の皆さま ▾ | 報道関係者の皆さま ▾ | パートナリング ▾ |

ホーム > 株主・投資家の皆さま > IRメールマガジン

IRメールマガジン



第一三共 メルマガ

検索

<https://www.daiichisankyo.co.jp/investors/mail/>



本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1125 (株式市場関係者の皆様)
03-6225-1126 (報道関係者の皆様)

Email: DaiichiSankyoIR@daiichisankyo.co.jp